

製品名: イオンチャネル型グルタミン酸受容体2 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe87466**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:500,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW:99 kDa; Observed MW:99 kDa

抗原情報

遺伝子名	Ionotropic Glutamate receptor 2
別名	GLUR2; GLURB; GluA2; HBGR2; GluR-K2
遺伝子ID	2891
SwissProt ID	P42262
免疫原	ヒトグルタミン酸受容体2の組換えタンパク質

背景

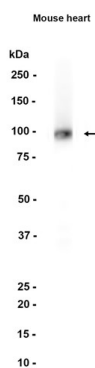
グルタミン酸受容体は、哺乳類の脳において主要な興奮性神経伝達物質受容体であり、様々な正常な神経生理学的プロセスにおいて

活性化されます。この遺伝子産物は、 α -アミノ-3-ヒドロキシ-5-メチル-4-イソキサゾールプロピオネート (AMPA) に感受性のあるグルタミン酸受容体ファミリーに属し、リガンド活性化カチオンチャネルとして機能します。これらのチャネルは、GRIA1~4という4つの関連サブユニットから構成されています。この遺伝子によってコードされるサブユニット (GRIA2) は、第2膜貫通ドメイン内でRNA編集 (CAG→CGG; Q→R) を受け、その結果、チャネルはCa(2+)を透過できなくなっていると考えられています。ヒトおよび動物を用いた研究では、pre-mRNA編集は脳機能に不可欠であり、GRIA2のQ/R部位におけるRNA編集の欠陥は、筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の病因と関連している可能性があることが示唆されています。この遺伝子では、選択的スプライシングにより、異なるアイソフォーム (シグナル伝達特性が異なるフリップアイソフォームとフロップアイソフォームを含む) をコードする転写産物変異体が生じることが報告されている。[RefSeq 提供、2008年7月]

研究分野

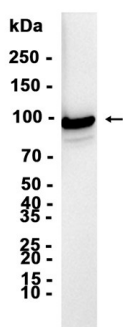
-

画像データ



イオンチャネル型グルタミン酸受容体2ウサギモノクローナル抗体を1:1000で使用してマウス脳組織抽出物のウェスタンブロット分析を行いました。

Mouse muscle



AMRe87466を1:1000で使用してマウス筋肉組織抽出物をウェスタンブロット分析しました。